主なご意見（発言の一部を抜粋しております）【小張地区　令和8年7月19日開催】

番号	要望・課題	内容	市民懇談会での回答	その後の対応 （令和8年8月末現在）
1	山野井精機前の歩道の整備について	山野井精機（豊体1670-3）前の歩道が、工事中のため雨が降ったときに水たまりになってしまうので、整備してほしい。	（都市建設部長） 県道の歩道は、水道管を移設した際の仮復旧状態となっている。茨城県からは現在、水が出ているため、整備が完了次第、舗装すると伺っている。 （市長） 大雨が降ると冠水してしまうため、歩道に新たに水道管を入れ直した。その際に、同時に工事をする予定であったが、冠水対策として排水管工事を行っている。冠水対策後に、舗装をしようと茨城県主体で工事をしている。今後についても、茨城県と協議しながら進めていく。	（建設課） 県道の側溝整備工事と併せ茨城県が舗装復旧工事を行う予定になっている。今後、施工時期について茨城県と協議を進めていく。
2	小張地区の交通安全対策について	TX沿線の渋滞により交通量が増えたため、交通安全対策が必要である。 小張地区では非常に交通事故が多いため、地元でもできる協力活動を実施しているほか、茨城県に対して要望や催促を行っているが、それだけでは、不十分と考えるため、市でも対策をしていただきたい。 市でも積極的に解決してほしいと考えているが、対策案はあるのか。 また、 ナビ案内をすると、どうやらその道が案内されるらしい。ナビ案内しないようにする方法はないか	（都市建設部長） 小張地区の県道については、地元の皆さんから同様の要望を伺っており、市から茨城県に対し、要望を行っている。今後も、茨城県に要望をしていきたいと考えている。 （市長） 運動公園から台通り用水路沿いの道までを抜け道として利用されている。利用できないようにする方が良いのではと思っている。 地元が使いづらくならないように、一方通行案と別の道を使いやすくする案を一緒に考えていきたい。 また、ナビ案内については、依頼すれば対応してくれるかもしれないので、市で調査し、対応する。	（建設課） 今後も、茨城県に要望をしていきたいと考えている。 ナビ案内については、一般財団法人日本デジタル道路地図協会に、ルート案内の変更を依頼し、対応していただいた。 一方通行規制や迂回道路の整備等について、地元住民や関係機関と協議を行い検討していく。
3	小張小学校下の防犯灯設置について	小張小学校下の道が通学路として使用されている。防犯灯設置について、以前建設課に確認したところ、設置は難しいと回答があったが、小張小学校側に設置してもらうことは可能か。伊奈中学校では、大通りを通らず裏通りを通学するよう指導されているが、不審者の噂があるので、子どもたちのために、防犯灯を設置していただきたい。	（総務部長） 防犯灯の設置については調査しており、民地、樹木伐採、電線の問題があることを、地元住民に回答した。引き続き、防犯灯の設置について検討したいと思っている。	（防災課） 学校総務課と防災課で協議し、学校側の法面樹木の枝払いや笹竹刈りを学校総務課で実施のうえ、防災課で電気の引込及び防犯灯３基の設置を行う予定。
4	小張地区の都市計画道路の早期着工について	愛宕から豊体までの県道は交通事故が多く危ないため、都市計画道路を着工してほしい旨を前回の市民懇談会でも要望した。他の都市計画道路は、次々に工事が進んでいるが、小張地区の都市計画道路が計画されているエリアは、事故が非常に多いが、全く進んでいない。渋滞緩和と人命のどちらが大切なのか市の考えを伺いたい。	（市長） 小張地区の都市計画道路は、茨城県が都市計画を決定した事業だが、工事が進まない理由としては、茨城県が早急に対応すべき道路でないと判断していると考えている。市では、茨城県と都市計画道路について公式、非公式問わず協議していることは実際にある。どのような話をしているかはお答えできず、どのようにまとまるかも分からないが、市が何もしていないわけではない。	

主なご意見（発言の一部を抜粋しております）【小張地区　令和8年7月19日開催】

番号	要望・課題	内容	市民懇談会での回答	その後の対応 （令和8年8月末現在）
5	小張地区の県道の実態把握について	つくばみらい市では、現在、交通事故の死亡者0人を120日間継続している。これは、市民と市が努力した結果と考えている。この先も交通事故の死亡者0人を継続するために、小張地区の朝7時30分ごろの交通状況を現地確認していただきたい。	（市長） 交通安全は、非常に重要。現在、交通安全キャンペーン期間中のため、市と常総警察が合同で啓発活動を行った。行政は啓発活動はできても、市民の皆さんの心掛けが重要であると思っている。市民の皆さんに交通安全を意識して、実施できるように、市は安全対策を行う役割があると実感しているので、寺下の十字路について、まずは調査し、実態把握を行う。	（建設課） 寺下の十字路について、道路を管理する茨城県に対し、状況を確認するよう依頼した。
6	少子化と小張小学校の将来について	市内の小学1年生は500人弱であり、令和8年度の出生数は300人に行かないと聞いた。年々少子化する中で、昨年、小張小学校に入学した児童は0人だった。新戸地区は、高学年の児童がいないため、登校班が無いことから、バス通学となっている。 また、みらい平にある小学校のクラス数が減少しており、人口のピークが過ぎていると感じる。小張小学校を含む市内の他校の児童数はさらに減少しており、保護者の負担に不公平感が否めない。小張小学校を英語推進校にするなど対策をしているが、将来を考えると他校を選択する保護者もいると聞く。若い世代に選ばれない中、今後も存続できるのか伺いたい。	（こども局長） 出生数については、毎年300人前後で横ばいである。 （教育部長） 令和8年度の新入生は約490人であった。小張小学校の児童数の推移については、さまざまな要素があり、正確ではないが、約80人から90人ほどで推移すると考えている。 （市長） 複式学級が発生したとき、複式学級を維持した教育は、児童にとって良くないと考えている。小規模校の良さがあるという考え方もあるが、私はそう思っていない。教育委員会では、将来的には統合もしくは小規模校でも社会学習や他校との交流ができる教育環境ができるよう考えている。また、関東鉄道のバスの運行など先行きが不透明なところもあるので、必要があればスクールバスを運行するなど考えなければならない。そのときは、児童を第一に考えた対策を地域の皆さんと話し合いながら検討を進めていく。	
7	市内小学校の教育環境のPRについて	小張小学校には、英語の先生としてフィリピンの方が3人いる。英語の授業に参加したが、児童たちは非常に上手に話している。また、小張小学校では、農業体験や綱火などの地元に密着した体験型教育を実施している。そういった教育について、市がもっとPRすれば、小張小学校に入学したい児童が増えるのではないかと考える。	（教育部長） 英語の取り組みや給食の地元食材や金芽米の提供などについて発信していきたい。 （市長） 小張小学校は、米作りや綱火など特色ある教育環境である。米作りについては、国際大会で賞を受賞した。来月の広報紙の約6ページ分を使い、小張小学校を特集するので、ぜひ楽しみにしていてほしい。	
8	奉社付近の都市軸道路について	奉社の都市軸道路の谷口川沿いの脇道は雨が降ると、雨水が10cmほど溜まってしまう。以前、建設課に現地確認してもらったが、補修をしてほしい。	（都市建設部長） 以前、建設課が現地確認しているとのことなので、再度、建設課に現地確認をするよう指示する。	（建設課） 舗装補修や側溝布設等の整備を検討する。
9	都市軸道路の信号機設置と段差解消について	カントリーエレベーターから谷和原に抜ける都市軸道路に信号が無く、事故が多い。中学生も利用しているが、左右が見えないため危ない。今後、信号を設置する予定があるか伺いたい。また、十字路付近の道路に段差があるため、段差を解消してほしい。	（総務部長） ご要望の交差点については、警察署に毎年要望しているが、設置に至っていないので、設置されるまで毎年要望を続けていく。 （都市建設部長） 十字路付近の段差については、現地確認を行う。	（防災課） 令和8年度の警察要望でも引き続き信号機設置要望を実施する。 （建設課） 段差を解消するため、まず仮復旧工事を行い、全面補修工事に向け検討する。

主なご意見（発言の一部を抜粋しております）【小張地区　令和8年7月19日開催】

番号	要望・課題	内容	市民懇談会での回答	その後の対応 （令和8年8月末現在）
10	農道の舗装について	みらい平からずい道の脇道が農道となっているが、舗装してほしい。	（都市建設部長） 建設課で現地確認を行い、茨城県に対応を依頼する。	（建設課） 道路を管理する茨城県に対し舗装要望を行った。
11	綱火の補助金について	小張の綱火は、愛宕、上中宿、下宿が費用を負担しており、不足分は自治会が負担している。しかし、費用が年々上昇しているため、市で一部負担してもらうことはできないか伺いたい。	（市長） 市内には、松下流と高岡流の綱火があり、市が綱火保存会を運営している。補助金については、綱火保存会と地元の皆さんとで話し合い、市の補助金審議会で補助金の金額を決定している。令和8年度は、補助金額は41万円のため、1団体あたり20万5千円となっている。思っていたより少ないと感じている。今年も綱火保存会で話し合いをするので、地元の皆さんの意見を聞きながら考えたいと思っている。	（生涯学習課） 要望を受け、綱火関係団体へのヒアリングを実施したところ、花火代等の高騰が年々進行しており、綱火実施上の大きな負担になっているとの意見があった。 現在、補助金要望額の増額について、同団体から市への補助金等交付要望書の提出（期限：9月30日）に合わせ、調整を進めている。
12	期日前投票のための臨時循環バスの運行について	選挙があると投票所である小張小学校で投票する。しかし、年を取ると、移動手段がなく、投票できなくなってしまう。病院バスなどと同じように、期日前投票のときでもいいので、投票所までのバスを出してほしい。	（市長） 選挙をする私としては非常にありがたい話である。選挙に行く人が少なくなり投票率が下がることは、あまりいいとは言えない。多くの人が選挙に参加してもらう意味でも、いいアイデアであると思う。あとは、市の職員が実現するための予算を付けるように、皆さんから強く伝えてほしい。	
13	小張小学校の登校班について	自宅付近で小張小学校に通学している児童が少なく、高学年の児童がいないため、登校班がつくれないので、登校班の機能がない状態であるので、登校班の編成など考えてほしい。また、スクールバスで通学できるように地区にバス停が数か所でもいいので、検討してほしい。そうすることで、保護者の負担が少なくなると思う。	（教育部長） 遠距離通学距離の児童には、路線バスが利用できるよう補助を行っている。登校班は、学校が調整を出来るのかを連絡する。 （市長） 教育委員会などで編成をやり直してもいいかもしれない。	
14	都市軸道路の4車線化について	つくばみらいスマートインターの開通すると都市軸道路が混むと考えている。現在、都市軸道路の4車線化の工事が進んでいるが、いつ頃4車線化されるのか伺いたい。	（都市建設部長） 茨城県から完成時期の連絡を受けていない。 （市長） つくばみらいスマートインターの開通とは関係がない。開通しても茨城県は、混雑すると考えていないと思っている。	

主なご意見（発言の一部を抜粋しております）【小張地区　令和8年7月19日開催】

番号	要望・課題	内容	市民懇談会での回答	その後の対応 （令和8年8月末現在）
15	新設中学校の開校と中学校の統廃合について	小張小学校に通学する児童は、今までであれば、卒業後は伊奈中学校に入学する。現在、小張小学校にはみらい平地区やその他の地区から通学しているが、来年4月に新設中学校が開校すると、どちらに通学することになるのか伺いたい。また、新しい中学校に通学したいという生徒も出てくると思うので、伊奈中学校や伊奈東中学校の生徒数が減少したとき、統合など市ではどのようなことを検討しているのか伺いたい。	（総務部長（前教育部長）） 学区の考え方として、小学校の場合は、通学距離が半分以下になる場合は、学校の変更をすることができる。中学校の学区変更は、希望する部活動の有無などにより認めている。来年4月に開校する中学校の学区は、みらい平地区にある小学校と谷和原中学校の学区である。現在の伊奈中学校には、陽光台小学校の卒業した生徒がおり、本来は、新設中学校に通学することになるが、生徒同士の付き合いや部活動などの理由により、伊奈中学校に残る選択肢も確保している。 同様に、英語教育推進校として小張小学校に通学している児童は、本来は住所地の学区にある中学校となるが、生徒同士の付き合いや部活動などを考慮したうえでの進学先を教育委員会は判断している。 （市長） 伊奈中学校と伊奈東中学校の統合については、何も決まっておらず白紙の状態だが、将来的なことを考えれば、中学校の存続は非常に厳しいことが予測されるので、統合は十分あり得る。現在4つの中学校は、老朽化していることから、統合は伊奈中学校や伊奈東中学校に留まらず、今回の新設中学校に市内全域から通学するということも選択肢の一つである。想像の域を出ず、その時の子どもの人数が影響してくると思うが、もし全域から通学した場合、通学方法を含めた小中学校のあり方が大きく変わるのではないかと思っている。	